

「校内研修活性化支援」に向けた  
アンケート調査報告  
【特別支援学校版】

## 目 次

<b>1</b>	校内研修の実施状況	2
<b>2</b>	校内研修の計画性・継続性	5
<b>3</b>	校内研修の組織性	7
<b>4</b>	研究授業・研究協議の実施状況	10
<b>5</b>	小集団による研修（SGA※ <sub>1</sub> ）の実施状況	13
	※1 SGA：Small Group Activitiesの略	
<b>6</b>	校内研修に対する自己評価	15

※ 授業研究などに代表される「校内研究」、外部講師等による「研修会」など学校が主体となって、教育目標の実現に向け、校長の指導のもと計画的、継続的、組織的に実施する研修の総称を「校内研修」と定義し、使用しています。

〈集計結果表とグラフに表示している数値について〉

- 図中の集計結果表で複数回答の設問の「回答割合」については、調査に回答した学校数に対する割合を記しています。
- 図中のグラフに示している数値は、その項目を選択した学校数を表しています。

# 1 校内研修の実施状況

特別支援学校での校内研修の実施内容や方法、実施回数や1回あたりの所要時間について考察をしています。

## 1-1 研修内容

全職員が参加する校内研修会で取り扱った内容(研修テーマを設定している学校においては、それ以外のもの)で最も多かったのは「人権教育」で92%に上りました。これは、「人権教育」を学校の努力目標の一つに挙げている学校が多いためと考えられます。

次いで多いのが「自立活動」と「障害特性に応じた指導」でどちらも75%でした。これらは、特別支援学校で日常的

な評価・改善等が行われており、「校内研修」で取り上げる学校も多いと考えられます。

一方、次項2-2で紹介する年間を通じたテーマ設定では、教育課程に関する研究テーマが50%であるのに対して、本質問の回答では8%にとどまっています。各学校は、「校内研究」と「校内研修」を区別してとらえ、教育課程は「校内研究」で扱うテーマと考えられているようです。

取り扱った内容(複数回答可)	学校数	回答割合
教育課程の編成	1	8%
教科別の指導	0	0%
領域別の指導(道徳・特別活動を含む)	0	0%
各教科を合わせた指導	1	8%
自立活動	9	75%
総合的な学習の時間	0	0%
小学校外国語活動	0	0%
授業におけるICT活用	1	8%
障害特性に応じた指導	9	75%
センター的機能	2	17%
交流及び共同学習	1	8%
人権教育	11	92%
生徒指導	0	0%
教育相談	0	0%
医療的ケア	2	17%
キャリア教育	1	8%
進路指導	6	50%
情報教育	2	17%
食育	0	0%
学校組織マネジメント	0	0%
危機管理	3	25%
倫理服務規律	4	33%
その他	3	25%

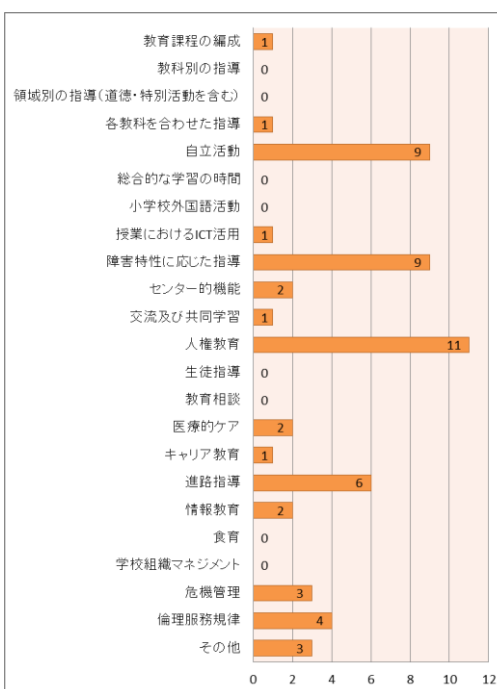


図1-1 全職員が参加する校内研修取扱い内容(年間研修テーマ以外で主なものを五つ以内回答)

### 1-2 研修回数

4校（33%）が年間21回の全職員参加の校内研修を実施しています。年間10回以上の学校は、58%です。

このことから、約6割の学校で月1回

の全員参加の校内研修が実施されており、特別支援学校では、研修の進捗や成果について全職員が共通理解をして進めようという学校の特質があると考えられます。

回数	学校数	回答割合
1回	0	0%
2回	0	0%
3回	2	17%
4回	1	8%
5回	0	0%
6回	0	0%
7回	0	0%
8回	2	17%
9回	0	0%
10回	0	0%
11回	0	0%
12回	0	0%
13回	0	0%
14回	0	0%
15回	1	8%
16回	1	8%
17回	1	8%
18回	0	0%
19回	0	0%
20回	0	0%
21回	4	33%

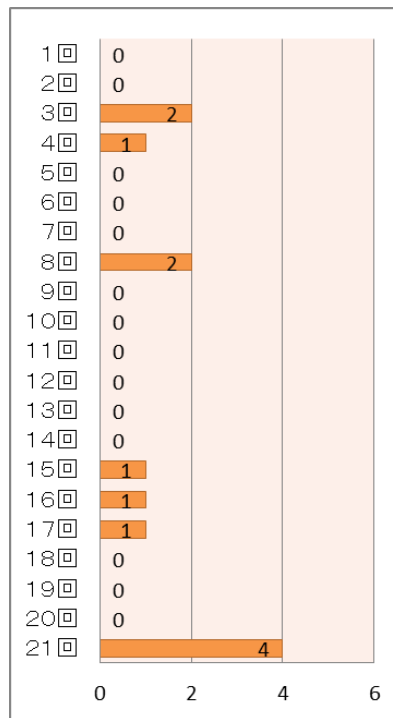


図1-2 全職員が参加する校内研修の年間実施回数

### 1-3 研修時間

最も多い回答は、60分であり、7校（58%）が該当します。児童生徒が下

校してから勤務終了時刻までを校内研修の時間に設定している学校が多いことがうかがえます。

時間	学校数	回答割合
15分	0	0%
30分	0	0%
45分	2	17%
60分	7	58%
75分	1	8%
90分	2	17%
105分	0	0%
120分	0	0%
135分	0	0%
165分	0	0%
180分	0	0%

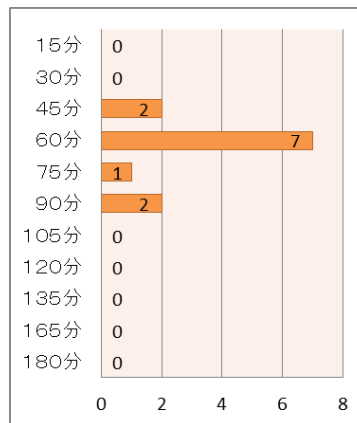


図1-3 全職員が参加する校内研修の1回あたりの所要時間

#### 1-4 研修方法

「外部講師による専門的な講義・演習等」は、全ての学校で取り組まれています。これは、特別支援学校が外部の関係機関と日常的に連携をしていることを表しているとともに、「長崎県特別支援教育推進基本計画」の「4 関連する諸課題への対応」の「医師、看護師、PT（理学療法士）等外部専門家の活用について」に示されているとおり、各学校が積極的に外部専門家を活用し、専門性の向上に取り組んで

いることがうかがえます。

次に多かったのが「学校外で行われた研究発表会等の報告会」で75%でした。研究発表会で得られた情報や知識を、限られた教員だけでなく、全職員の財産として共有することを目指している学校現場の努力がうかがえます。

また、ワークショップ的な手法を取り入れるなど、研修手法の工夫にも取り組んでいることが分かります。

研修方法（複数回答可）	学校数	回答割合
外部講師による専門的な講義・演習等	12	100%
シンポジウムやパネルディスカッションなどの討論会	0	0%
授業分析のためにワークショップ的な手法(KJ法など)を取り入れた授業研究会	6	50%
ワークショップ的な手法(KJ法など)を取り入れたグループ討議	8	67%
身近で具体的な事例をもとにした事例研究法(ケーススタディ)	5	42%
実習・見学・訓練などの体験学習	5	42%
ロールプレイング(役割演技)などのシミュレーション技法	1	8%
診断テストやチェックリストなどによる現状の分析	5	42%
模擬授業	0	0%
学校外で行われた研究発表会等の報告会	9	75%
その他	0	0%

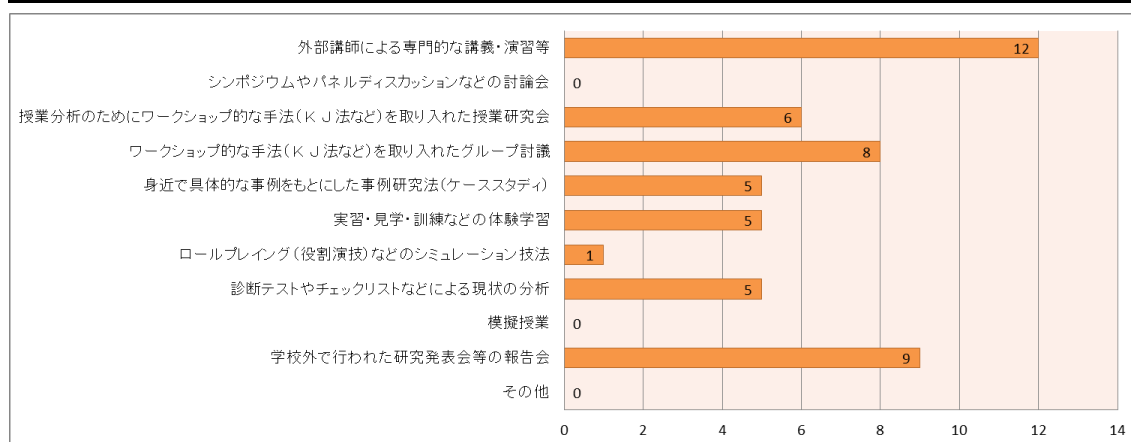


図1-4 全職員が参加する校内研修会で実施した研修方法

## 2 校内研修の計画性・継続性

特別支援学校での校内研修における、年間を通じたテーマ設定について考察をします。

### 2-1 年間を通じたテーマ設定

回答した全ての学校において、年間を通じたテーマ設定がなされています。

このことから、特別支援学校では、年間を見通し、計画的・継続的に校内研修が実施されていることがうかがえます。

研修テーマの設定	学校数	回答割合
設定している	12	100%
設定していない	0	0%
全回答数	12	100%

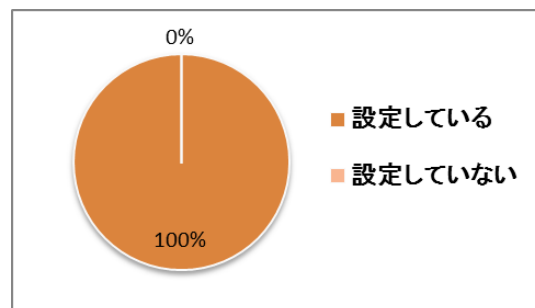


図2-1 年間を通じた研修テーマの設定

### 2-2 テーマの対象分野

教育課程に関するテーマ設定が50%と最も多くなっています。これは、改訂された学習指導要領を受け、各学校が自校の教育課程の見直し・改善を取り上げていることが考えられます。

また、「その他」と回答した学校は、33%ですが、具体的には「自立活動」が多く取り上げられています。自立活動は、特別支援学校における指導の要であることから、多くの学校で年間を通じたテーマとして設定されるのではないかと考えられます。

設定テーマ	学校数	回答割合
教育課程	6	50%
教科指導	1	8%
総合的な学習の時間	0	0%
道德教育	0	0%
特別活動	0	0%
生徒指導	0	0%
進路指導	1	8%
その他	4	33%



図2-2 研修テーマの対象分野

### 2-3 テーマ設定の理由

最も多かったのが「学校の教育目標を達成するため」であり、58%でした。

これは、学校教育目標を具現化し、具体的な教育活動を通じて、その目標を達成しようとするカリキュラムマネジメ

ントの考え方が浸透しているためと考えられます。

なお、特別支援学校の校内研修は、研究指定の有無によらず、学校の実態に応じて行われています。

テーマ設定の理由	学校数	回答割合
研究指定の趣旨をいやすため	1	8%
学校の教育目標を達成するため	7	58%
教職員の資質能力の向上を図るため	3	25%
その他	1	8%

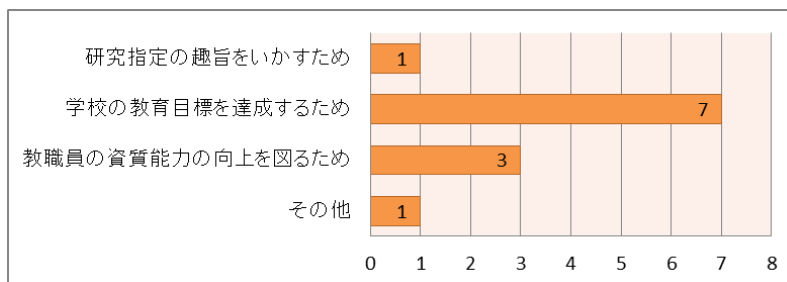


図 2-3 研修テーマ設定の理由

### 3 校内研修の組織性

特別支援学校での校内研修における、推進組織及び学校全体の研修に係る組織編成方法や研修活性化のための組織化の工夫について考察をしています。

#### 3-1 校内研修推進部署

「推進委員等、校内研修のための部署を組織」する学校が55%、「教務部、研修部等が担当」している学校が45%で、これ以外の回答はありません

でした。

特別支援学校では、校内研修を推進する独自の部署を置く学校と、既存の組織が担う学校のタイプに分けられます。

研修推進のための部署	学校数	回答割合
推進委員会等、校内研修のための部署を組織	6	55%
教務部、研修部等が担当している	5	45%
設置していない	0	0%
その他	0	0%

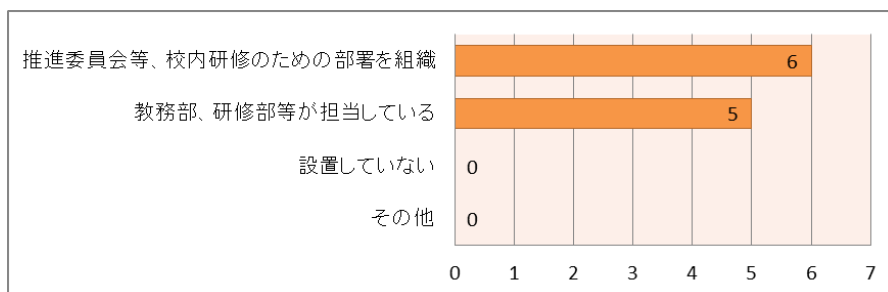


図3-1 校内研修を中心となって推進する部署



### 3-2 校内研修に係る組織化

最も多かったのは「テーマに即した、いくつかのグループを組織し、取り組んでいる」が47%、次いで、「部を単位とした組織で取り組んでいる」が33%であり、この2つの回答を合すると80%となります。「テーマに即した、いくつかのグループを組織し、取り組んでいる」については、研究組織を固定的

にとらえず、テーマに応じて必要な組織編成が柔軟に行われていることが考えられます。また、「部を単位とした組織で取り組んでいる」については、特別支援学校では、研修だけではなく、教育課程の編成や行事等の取組など、部単位で行われるという特徴があるためと考えられます。

校内研修に係る組織化（複数回答可）	学校数	回答割合
テーマに即した、いくつかのグループを組織し取り組んでいる	7	47%
学年を単位とした組織で取り組んでいる	0	0%
教科を単位とした組織で取り組んでいる	1	7%
部を単位とした組織で取り組んでいる	5	33%
特別な組織化はしていない	1	7%
その他（例．縦割り組織での取組）	1	7%

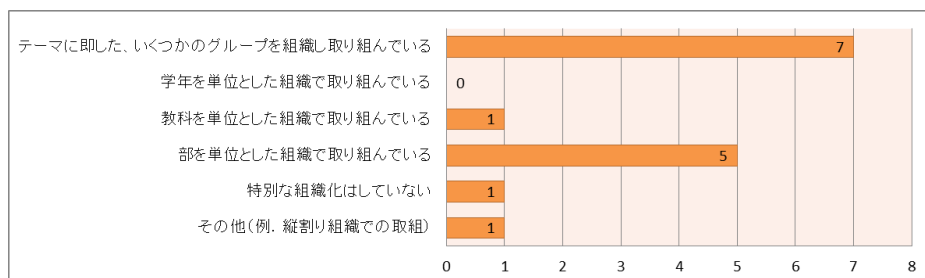


図3-2 校内研修にかかる組織化（複数回答可）

### 3-3 校内研修活性化のための組織化の工夫

校内研修をより活発なものとするために行っている、学校全体の組織化に関する工夫例を紹介します。（一部を抜粋し掲載しています。）

- 職員数が少ないので、全員参加で行っている。ここでは、ワークショップのやり方などを取り入れ、全員が参加できるように配慮している。
- 研究に関する意見が活発に出やすいように、各部署（小学部、中学部、寄宿舎）に分かれ、事例研究をとおした校内研究に取り組んでいる。
- 小学部から高等部までを縦割りにしたグループの編制（今年度は、教育課程の類型別、教科別で編制）をして取り組んでいる。
- 各部の取組の進行等を研究推進委員会で確認しながら、必要に応じて指導助言ができるようにして進めている。
- 普通の授業を一緒に行っている学習グループを研究グループにしている。

## 4 研究授業・研究協議の実施状況

事後の研究協議を位置付けた研究授業の実施状況について、研究授業の実施回数、研究協議の実施方法や1回の所要時間、また協議を効果的なものするための工夫などを考察しています。

### 4-1 研究授業の実施回数

年間9回以上実施している学校が50%となりました。

これは、月1回以上の研究授業を実施している学校が半数あるとともに、授業

研究を通して校内研修テーマの検証を行うスタイルが定着していることが考えられます。

研究授業の実施回数	学校数	回答割合
0回	1	8%
1回	0	0%
2回	0	0%
3回	3	25%
4回	0	0%
5回	2	17%
6回	0	0%
7回	0	0%
8回	0	0%
9回	2	17%
10回	0	0%
11～15回	2	17%
16～20回	2	17%

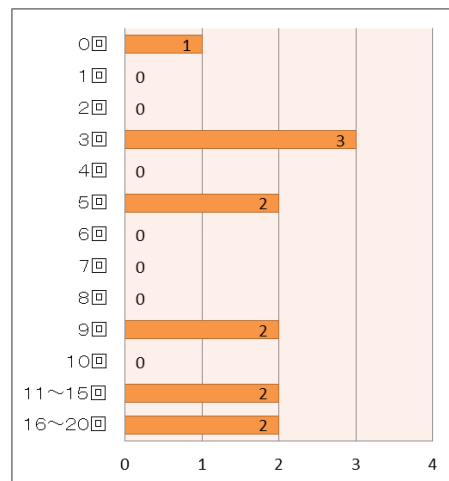


図4-1 研究授業の実施回数

### 4-2 研究協議の実施方法

最も多い回答は、「できるだけ、全体会を行うようにしている」で45%でした。こうした学校では、研究授業及び授業研究会の成果や課題を全職員で共有しようという意識が高いことが考えられます。

「部を中心として協議を行っている」という回答が次に多く、27%でした。これは、全体研究テーマを基に部単位でより具体的なテーマを設定している学校が多く、部独自の研究授業が実施されている可能性があることが考えられます。

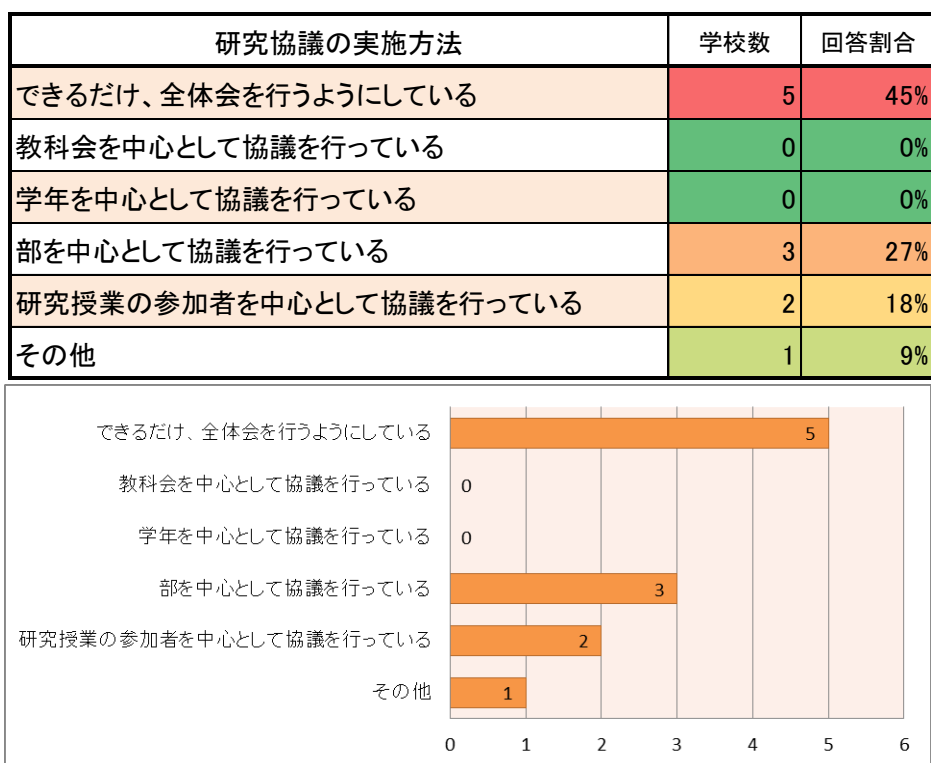


図 4-2 研究協議の実施方法

#### 4-3 研究協議の所要時間

「45分」、「60分」の回答を合わせると82%でした。児童生徒の下校後、

勤務終了時刻までを校内研修の時間に設定している学校が多いことがうかがえます。

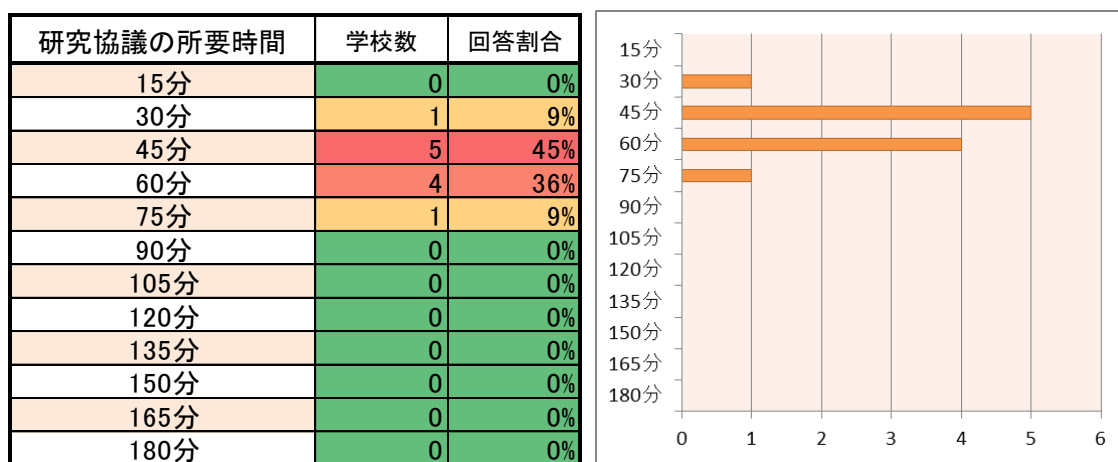


図 4-3 研究協議 1 回あたりの所要時間

#### 4-4 研究協議を効果的なものにするための工夫

研究授業後の研究協議を効果的なものにするために、各校で行っている工夫例を紹介します。（一部を抜粋し掲載しています。）

- 研究授業をビデオに撮影して、全教員がその様子を観ることができるようにしている。
- 事前検討会を行い、研究授業の目的、内容等について検討している。
- グループ代表授業の指導案はグループ内で検討を重ね、テーマに沿った課題の共通理解を深めている。この検討を通して、自らの指導も振り返ることができる。全体研究会の中で出された意見や助言は、グループに持ち帰り、グループ内でさらに指導改善に向けての具体的な方策について協議を深めている。
- 授業改善シートを用いた授業参観を実施している。

## 5 小集団による研修（SGA）の実施状況

組織の活性化に有効とされている小集団による主体的な取組について、校内研修の視点とその他の視点から実施状況を整理しています。

### 5-1 小集団による学び合いを進めるための工夫

学校全体で取り組んでいる校内研修において、少人数での学び合い（研修・研究）を進めるために行っている工夫例を紹介します。（一部を抜粋し掲載しています。）

- ワークショップ型の研修を取り入れることで少ない時間で結論まで話し合うことができている。
- 一人一研究授業がベースである。その中からグループ代表授業（3グループ）を全員参加で参観、協議する。また、所属グループのメンバーの授業は必ず参観し、グループ内で授業研究会を実施する。参観ができるよう時間割を調整したり、合同授業を設定して交代で参観ができるようにしたりしている。グループ研究会の時間は時間割を調整し、課業時間に設定して確保している。時間に制限があるので効率よく進められている。
- 小学部から高等部までを縦割りにし教科別グループを編制し、学部を越えた協議を行っている。
- 中学部の場合、研究授業の組み立てをテーマグループのメンバーで取り組む研究授業として、グループ検討をするようにしている。

## 5-2 小集団による学び合いを進めるための工夫【校内研修以外】

校内研修以外での、少人数での学び合いを行っている実践例を紹介します。（一部を抜粋し掲載しています。）

- グループ内で、教材教具を作成し、互いに共有して活用している。
- 特別支援教育コーディネーターを中心とした事例研究を実施している。
- 学年別のブレーストーミング（4～6人）を実施している。

## 6 校内研修に対する自己評価

「組織」「リーダーシップ」「意欲」「共通認識」「見通し」「方法」「情報」「成果」「時間確保」「評価・改善」などの自己評価について考察しています。

### 6-1 組織の有効性

「校内研修のテーマや年間計画にもとづき、校内の組織は有効に機能している。」という設問では、「とてもそう思う」が7校（58%）、次いで「そう思う」が5校（42%）であり、否定的な回答はありませんでした。

全ての学校で、校内研修のテーマや年間計画にもとづき、校内の組織は有効に機能しているようです。

組織は有効に機能している	学校数	回答割合
とてもそう思う	7	58%
そう思う	5	42%
あまりそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%

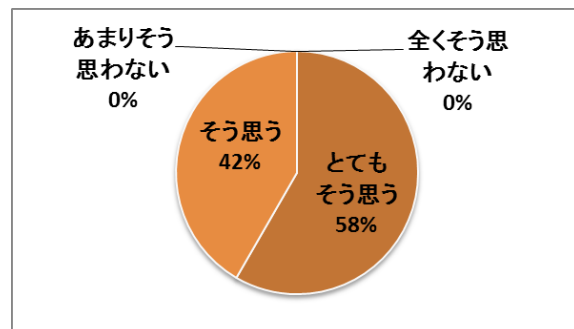


図6-1 【自己評価】テーマや年間計画にもとづき校内の組織は有効に機能しているか

### 6-2 リーダーシップ

「校内研修を推進する部署のリーダーシップが発揮されている。」という設問では、「とてもそう思う」が4校（33%）、次いで「そう思う」が7校（59%）であり、この二つを合わせて全体の92%の回答となりました。

校内研修を推進する部署のリーダーシップは、おおむね発揮されているようです。

推進部署のリーダーシップの発揮	学校数	回答割合
とてもそう思う	4	33%
そう思う	7	59%
あまりそう思わない	1	8%
全くそう思わない	0	0%

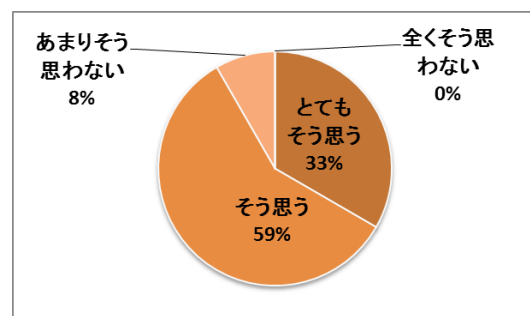


図6-2 【自己評価】推進する部署のリーダーシップが発揮されているか



### 6-3 教職員の意欲

「校内研修に教職員が意欲的に取り組んでいる。」という設問では、「とてもそう思う」が2校（17%）、次いで「そう思う」が9校（75%）であり、この二つを合わせて全体の92%の回答となりました。

校内研修に対して、教職員はおおむね意欲的に取り組んでいるようです。

教職員は意欲的に取り組んでいる	学校数	回答割合
とてもそう思う	2	17%
そう思う	9	75%
あまりそう思わない	1	8%
全くそう思わない	0	0%

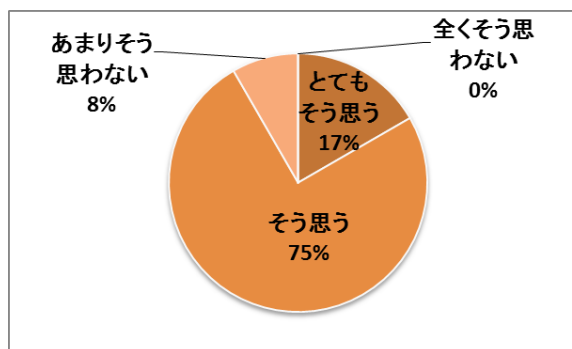


図6-3 【自己評価】教職員は意欲的に取り組んでいるか

### 6-4 共通認識

「校内研修の取組は、教職員の共通認識のもとに進められている。」という設問では、「とてもそう思う」が4校（33%）、次いで「そう思う」が8校（67%）であり、否定的な回答はありませんでした。

全ての学校で、校内研修の取組(実践、協議等)は、教職員の「共通認識」のもとに進められているようです。

「共通認識」のもと進められている	学校数	回答割合
とてもそう思う	4	33%
そう思う	8	67%
あまりそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%

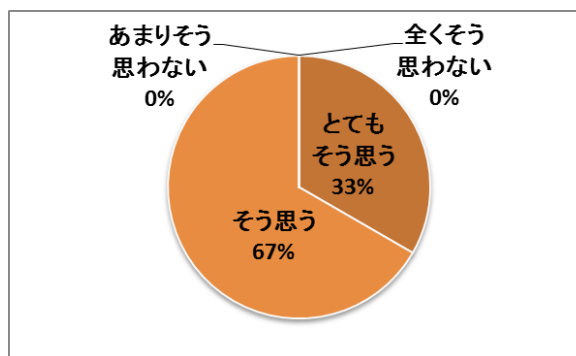


図6-4 【自己評価】教職員の「共通認識」のもと進められているか

### 6-5 見通し

「校内研修に対して、教職員は年間の見通しを持って取り組んでいる。」という設問では、「とてもそう思う」が3校（25%）、次いで「そう思う」が8校（67%）であり、この二つを合わせて全体の92%の回答となりました。

校内研修に対して、教職員が年間の見通しを持って取り組むことは、おおむねできているようです。

年間の見通しを持っている	学校数	回答割合
とてもそう思う	3	25%
そう思う	8	67%
あまりそう思わない	1	8%
全くそう思わない	0	0%

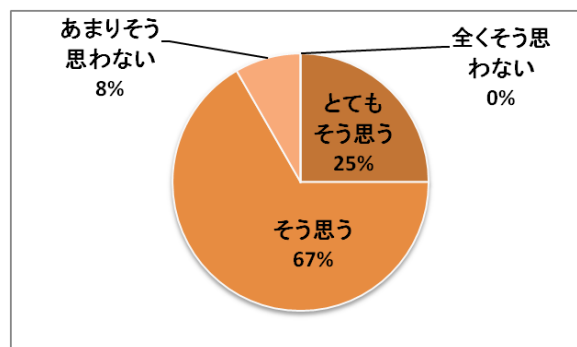


図6-5 【自己評価】教職員は年間の見通しを持って取り組んでいるか

### 6-6 手法の工夫

「校内研修会の方法は、内容や目的に応じて工夫されている。」という設問では、「とてもそう思う」が7校（58%）、次いで「そう思う」が5校（42%）であり、否定的な回答はありませんでした。

全ての学校で、校内研修会の方法は、内容や目的に応じて工夫されているようです。

方法は工夫されている	学校数	回答割合
とてもそう思う	7	58%
そう思う	5	42%
あまりそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%

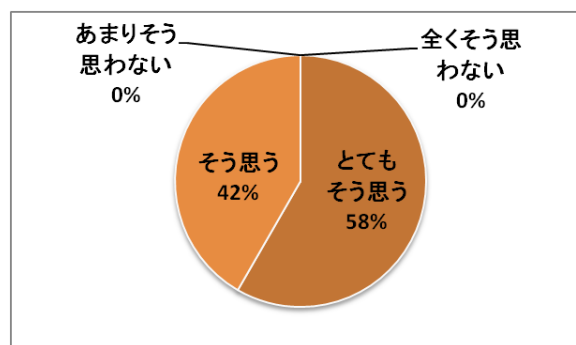


図6-6 【自己評価】方法は、内容や目的に応じて工夫されているか

### 6-7 資料の収集

「校内研修に必要な資料等を入手できている。」という設問では、「とてもそう思う」が2校（17%）、次いで「そう思う」が9校（75%）であり、この二つを合わせて全体の92%の回答となりました。

校内研修に必要な資料等の入手は、おおむねできているようです。

必要な資料等を入手できている	学校数	回答割合
とてもそう思う	2	17%
そう思う	9	75%
あまりそう思わない	1	8%
全くそう思わない	0	0%

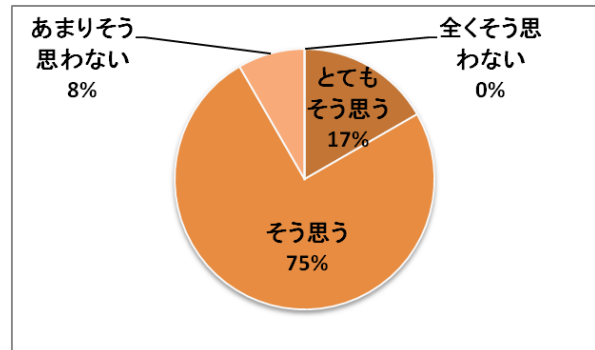


図6-7 【自己評価】必要な資料等を入手できているか

### 6-8 成果の還元

「校内研修によって得た成果は、児童生徒へ還元されている。」という設問では、「とてもそう思う」が1校（8%）、次いで「そう思う」が10校（84%）であり、この二つを合わせて全体の92%の回答となりました。

校内研修によって得た成果を、児童生徒に還元することは、おおむねできているようです。

成果は、児童生徒へ還元されている	学校数	回答割合
とてもそう思う	1	8%
そう思う	10	84%
あまりそう思わない	1	8%
全くそう思わない	0	0%

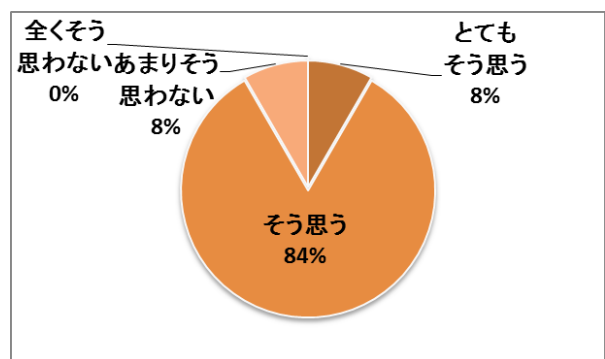


図6-8 【自己評価】成果は、児童生徒へ還元されているか

### 6-9 時間の確保

「校内研修を実施するための時間は確保できている。」という設問では、「とてもそう思う」が4校（33%）、次いで「そう思う」が5校（42%）であり、この二つを合わせて全体の75%の回答となりました。自己評価の設問の中で、肯定的評価は最も低くなっています。

校内研修を実施するための時間の確保については、工夫の余地があると考えられます。

研修の時間は確保できている	学校数	回答割合
とてもそう思う	4	33%
そう思う	5	42%
あまりそう思わない	3	25%
全くそう思わない	0	0%

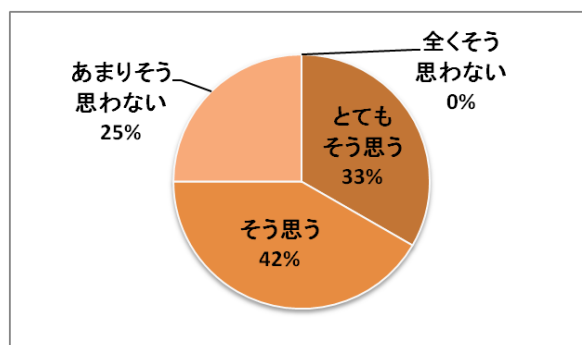


図6-9 【自己評価】実施時間は確保できているか

### 6-10 評価と改善

「校内研修を適切に評価し、運営の改善に役立てることができている。」という設問では、「とてもそう思う」が1校（8%）、次いで「そう思う」が9校（75%）であり、この二つを合わせて全体の83%の回答となりましたが、「あまりそう思わない」も2校（17%）ありました。

校内研修を適切に評価し、運営の改善に役立てることは、おおむねできていますが、学校によっては工夫が必要であると考えられます。

適切に評価し、運営の改善に役立てることができている	学校数	回答割合
とてもそう思う	1	8%
そう思う	9	75%
あまりそう思わない	2	17%
全くそう思わない	0	0%

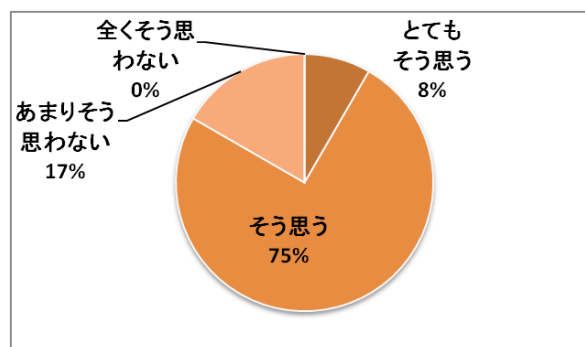


図6-10 【自己評価】適切に評価し、運営の改善に役立てることができているか

校内研修の中で、特に研究授業や授業研究会の実施について、時間の確保や適切な評価及び授業改善の実情について考察しています。

### 6-11 授業研究の時間確保

「研究授業・授業研究会を実施するための時間は確保できている。」という設問で、「とてもそう思う」が2校（17%）、次いで「そう思う」が7校（58%）であり、この二つを合わせて全体の75%の回答となりました。6-9の「時間の確保」同様、自己評価の設問で最も実現状況が厳しくなっています。

研究授業・授業研究会を実施するための時間は、おおむね確保できていますが、学校によっては、協議のための時間確保等、工夫が必要であると考えられます。

研究授業・授業研究会を実施するための時間は確保できている	学校数	回答割合
とてもそう思う	2	17%
そう思う	7	58%
あまりそう思わない	3	25%
全くそう思わない	0	0%

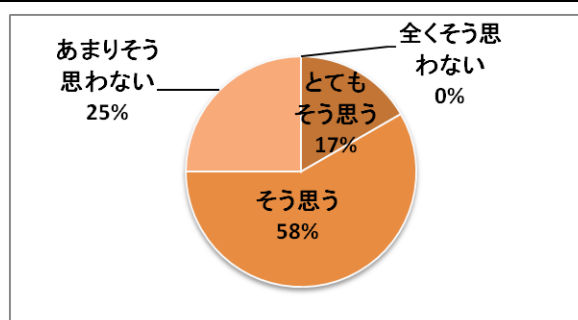


図6-11 【自己評価】研究授業・授業研究会を実施するための時間は確保できているか

### 6-12 授業の評価と改善

「授業研究会等で研究授業は適切に評価され、授業改善に役立てることができている。」という設問では、「とてもそう思う」が4校（33%）、次いで「そう思う」が8校（67%）であり、否定的な回答はありませんでした。

全ての学校で、授業研究会等で研究授業は適切に評価され、授業改善に役立てることができているようです。

研究授業は適切に評価され、授業改善に役立てることができている	学校数	回答割合
とてもそう思う	4	33%
そう思う	8	67%
あまりそう思わない	0	0%
全くそう思わない	0	0%

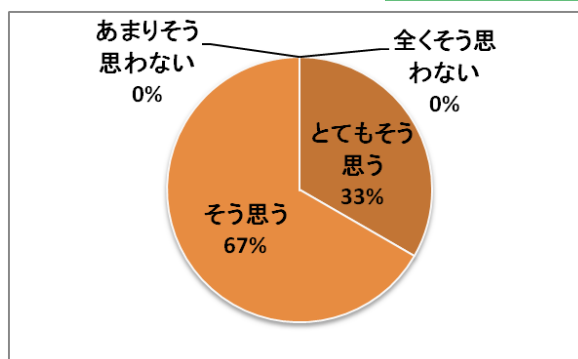


図6-12 【自己評価】研究授業は適切に評価され、授業改善に役立てることができているか